公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成事業報告書［抄録］

１．事業名：歯科口腔保健の普及啓発事業・歯の喪失防止に関する調査事業

２．申請者名：一般社団法人福岡市歯科医師会　会長　吉兼　　透

３．実施組織：一般社団法人福岡市歯科医師会

４．事業の概要

健康で質の高い生活を営む上で、定期的な歯科健診や歯科診療の受診を通じて口腔の健康を保持・増進することは、重要な役割を果たしている。

令和５年の国民健康･栄養調査において、「過去１年間に歯科健診を受診した者」の割合は 58.8%であり、市町村が実施する歯周疾患検診の受診率は約 5%（推計値）に留まっている。これら歯科健診（検診）受診率の低さの要因として、健診時間の長さや、患者が客観的に納得しづらいという問題点が挙げられており、実施する歯科医師・歯科衛生士の不在や時間的負担も課題となっている。一般的に歯周病は自覚症状のないまま進行するため、定期的な検査による早期発見が重要とされているが、先述のとおり、早期発見の機会を得られていないのが現状である。

『生涯を通じた切れ目ない歯科健診、疾病の重症化予防にもつながる歯科口腔保健の充実』（骨太の方針）を目指して昨年に引き続き、福岡市歯科医師会で行われるイベント「デンタルフェア 2025」や「ふくおか市民糖尿病教室」を利用して、短時間で歯周疾患のリスク評価が可能なスクリーニングツール歯周病原因菌酵素測定試薬（簡易検査キット：アドチェック）を用いた歯周疾患簡易検診を行う。市内でのイベント等において、歯周疾患リスクを簡易に判別する事で、歯周病予防の「視える化」が容易で、市民の自発的な健康づくりを促すこととなり、8020 運動の達成をさらに推進することが期待される。

また、咀嚼能力の低下は要介護のリスクを高める、という福岡市民を対象とした九州大学の調査結果を受け、今年度から新たに、（１）乳幼児期から青年期への口腔機能の獲得期、（２）青年期から壮年期に至る口腔機能の維持期、そして（３）高齢期へ至る口腔機能の回復期、これらすべてのステージに対する、『咀嚼』『咀嚼能力』の認知度向上に向けた取り組みを行う。咀嚼チェックガムを利用した簡易検査も併用しながら、行政と歯科医師会が連携して全市民向けに「咀嚼」の重要性についての啓発活動を行う。

５．事業の内容：

広く地域住民と接する事のできるイベント（福岡市民の健康を歯と口から守る集い・糖尿病教室）を利用して、歯周疾患のリスク評価が可能な簡易検査キット（アドチェック）を用いた検診を行った。検査結果をもとに、市民の口腔内への関心を高めるとともに、歯科医院への受診による適切な口腔ケア及び治療への能動的なモチベーションの向上に繋げた。その際に、ホームページやインスタグラム、フェイスブック等の SNS を利用し、口腔環境の重要性について啓発を行った。

また、咀嚼チェックガムによる市民啓発として、11 月 2 日に「噛む活 FUKUOKA キックオフイベント」を行い 8,000 名の集客を得た。このキックオフイベントを皮切りに 11 月 9 日に行われたデンタルフェア 2025 にて「歯っぴ〜カムカム」というブースにて、365 名の来場者に対して「咀嚼力チェック」を行った。市内の会員診療所においても咀嚼チェックガムを外来患者さんに噛んで貰い、簡単なスクリーニングも行い、咀嚼能力の認知後向上に取り組んだ。高齢者に対しては保健所や公民館等で市民向けに出前講座を行い、口腔機能検査・訓練についてその重要性を周知し、地域住民が集う場所にパンフレットを設置し配布した。

６．実施後の評価（今後の課題）：

11 月に開催した「デンタルフェア 2025」、「ふくおか市民糖尿病教室」それぞれに於いて、アドチェックによる歯周病簡易検査は、高い関心を得られた。元々糖尿病患者は歯周病に対して関心が高いと推察されるが、来場者の年齢や歯科への関心度がバラバラな市民対象のイベントに於いても、他のブースに比べて最も集客が多く行列が出来るほどで、福岡市民の口腔（歯周病）への関心の高さを実感した。検査後の結果説明では今後の口腔健康管理の方法や定期的な歯科受診の必要性についてお話したが、質問も多かった。２つのイベントを通じての検査結果はスコア A（良好）117 名：63%、スコア B（軽度歯周炎リスク）53 名：28%、スコア C（重度歯周炎リスク）16 名：9%　であった。

今後の課題はイベント参加者の行動変容によって、かかりつけ歯科医院にて精密検査や治療等が行われ、リスク検査データと実際の口腔内との乖離度合いを狭められる様なリサーチ方法を構築していきたい。今後も市内で行われるイベント等で積極的に本検査を行い、その後の歯科医院受診に繋げ、データの集積を行いつつ、8020 運動の達成をさらに推進していきたいと考える。

咀嚼力チェックについては、イベントや歯科医院での体験を通じて咀嚼能力についての関心を得られたと思われるが、今後、測定データ（市行政で集計）を見ながら更なる啓発に繋げていきたい。